

令和7年度指定管理者運営状況検証シート

1 施設名等

令和8年3月31日現在

施設名 (設置年月日)	とべ動物園 (昭和63年4月1日)	所在地 電話 HP	愛媛県伊予郡砥部町上原町240 089-962-6000 https://www.tobezoo.com/
県所管課	土木部道路都市局都市整備課	指定管理者の名称	公益財団法人愛媛県動物園協会
指定期間	令和6年4月1日～令和11年3月31日(5年間)	利用料金制	○ あり

2 施設の概要と指定管理者が行う業務等

設置目的	県民が動物とふれあい、豊かな心を助長させるとともに、動物の知識を得て動物愛護の精神を学ぶ教育の場として、また憩いや潤いを提供する場として設置	施設の外観
施設内容	主要施設 ○ 獣舎…カンガルー・ワラビー舎ほか35棟 ○ 管理施設…管理事務所ほか14棟 ○ 便益施設…便所ほか8棟	
指定管理者が行う業務	①運営に関する業務 ②愛媛県立都市公園条例第6条の規定による公園の利用の禁止又は制限に関する業務 ③利用の許可に関する業務 ④利用に係る料金の収受に関する業務 ⑤利用者への便宜の供与に関する業務 ⑥利用の促進に関する業務 ⑦施設、附属設備及び備品の維持管理に関する業務 ⑧その他知事が定める業務	
施設の管理体制	出納員(都市整備課主幹) 理事 常務理事 事務局長 事務局次長 園長 副園長 経営管理課長※2 担当課長 教育普及課長 飼育展示課長 担当課長 動物病院院長 衛生グループ 経営推進グループ 施設管理グループ 教育係 飼料管理係 ボランティアセンター 飼育第1係 飼育第2係 飼育第3係 動物取扱業専任者	

3 検証のための指標の推移

(1) 利用者数

年 度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
年間利用者数	356,479 人	458,007 人	410,118 人	413,463 人	403,042 人

(2) 収支状況

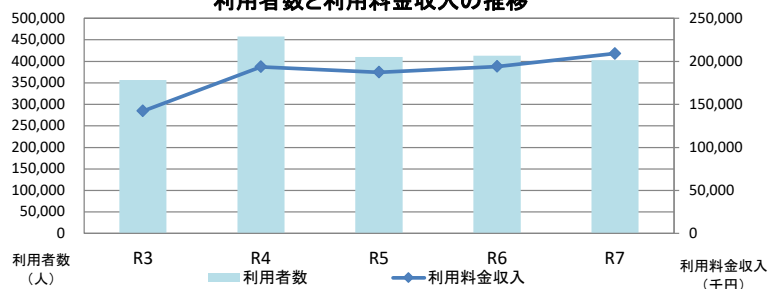
年 度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
収 (A)	621,404 千円	625,552 千円	613,188 千円	717,355 千円	722,832 千円
委託料	371,212 千円	371,212 千円	405,385 千円	498,849 千円	477,022 千円
委託料(補正額)※	87,238 千円	29,874 千円	0 千円	0 千円	0 千円
利用料金収入	142,223 千円	193,701 千円	187,332 千円	194,090 千円	208,984 千円
その他収入	20,731 千円	30,765 千円	20,471 千円	24,416 千円	36,826 千円
支 (B)	623,875 千円	618,887 千円	619,718 千円	712,400 千円	713,293 千円
事業費	165,256 千円	110,939 千円	119,584 千円	137,687 千円	136,707 千円
維持管理費	158,924 千円	179,016 千円	178,495 千円	206,147 千円	200,608 千円
人件費	299,145 千円	328,382 千円	321,089 千円	368,016 千円	375,428 千円
その他支出	550 千円	550 千円	550 千円	550 千円	550 千円
収 (A) - 支 (B)	▲ 2,471 千円	6,665 千円	▲ 6,530 千円	4,955 千円	9,539 千円

(※) 新型コロナウイルスの影響等により、補正予算で増額した委託料を記載

(※2) 収支状況に大きく影響を及ぼした要因があった場合、その内容

令和7年4月1日より、入園料金を改定(大人500円→大人600円、高齢者200円→300円パスポート大人1,500円→2,000円、高齢者500円→1,000円)及び売店事業などの自主事業収入の増収。

利用者数と利用料金収入の推移



4 管理運営の評価

(1) 提供サービスや利便性の向上のための取組み

指定管理者の自己検証		県施設所管課の検証	
○夜の動物園の開催、動物の誕生会ほかの事業の実施。 ○移動動物園や講師派遣などによる動物の知識及び愛護思想の普及活動。 ○年間パスポートや各種割引制度、コンビニでの前売り販売などの入園料金のサービス、こどもの城及び総合運動公園との駐車料金の連携サービス。 ○入園料金および物販でのキャッシュレス対応。 ○ジップラインの運行に伴う、こどもの城側でのジップライン+動物園入園券のセット販売。 ○県が整備する「とべもりジップライン」の運行に関する協力。 ○県が実施するGO！GO！WEEKS、とべもりクエスト、イルミネーション事業、アートベンチャーえひめ、パラアートえひめに関する協力。 ○えひめ森林公園が実施するとべもり+スタンプラリーへの協力。 ○入院している子どもたちのために、愛媛大学医学部附属病院小児病棟ととべ動物園を結ぶオンライン中継イベントを行った。 ○有料ガイド事業の拡充。「獣医師体験」(1回)「TokuBEZoo」(5回)「サンライズー」(3回)「ネコ歩き」(1回)「工作イベント」(4回)「パーソナルガイド(新規イベント)」(6回) ○ホテルと連携した入園券とのセット販売や、特別ルーム「TOBEZOOroom」を継続している。		令和7年度は、記録的な猛暑や、週末の天候不良が例年より多かった結果、入園者数が昨年度から減少してしまったが、各種イベントの実施や、新たな有料ガイド事業を開始するなど、積極的に誘客策を講じている点は評価できる。	評 価
			A

(2) 施設の適正な維持管理のための取組み

指定管理者の自己検証		県施設所管課の検証	
○職員が日常的に施設の点検を行い、建築物の清掃に努めた。来園者が安心して施設を利用できるように、建物の壁・床・天井の点検、屋外ベンチや植栽の枯れ枝等の確認を行い、不具合を発見したときは、県と協議し、復旧・改修した。 ○公園施設及び付属設備等の安全で適切な運営のため、職員が外観点検・機能点検を実施した。また、特殊施設については、施設等の維持管理に関する業務基準表に基づき保守点検業務を専門業者に委託した。		当施設は開園から37年が経過しており、老朽化が進む中、日常点検や協会の経費での小規模補修を実施するなどして、適正な維持管理に努めている。	評 価
			A

(3) 利用者からの評価と、意見を反映させるための取組み

指定管理者の自己検証		県施設所管課の検証	
○利用者アンケートの実施 来園者アンケートに記載のとおり、来園者の満足度は、窓口の対応82.0%、飼育職員の対応83.1%、動物の説明方法78.0%となっており、ソフト面では概ね80%近いが、施設面ではトイレ74.7%、駐車場71.3%他、80%を下回る項目もあり、収益等事業の施設(売店と遊具)を除くと80.4%となった。 ○代表メールアドレスの公開 意見や要望の把握および動物に関する質問に答えている。 ○「動物園の集い」の開催 報道機関・関係者等から生の意見を徴収し園の運営に活用した。		職員対応等のソフト面において、約80%という比較的高い満足度を記録できている点は評価できる。 今後とも利用者・関係者の声を活かし、満足度向上に繋げていきたい。	評 価
			A

(4) 施設関連情報の発信のための取組み

指定管理者の自己検証		県施設所管課の検証	
○年報の公表 ○平成29年度から広報・営業班を設置、職員1名を増員し、ホームページ、フェイスブック、X(旧ツイッター)、Instagramにより情報発信に務めたほか、イベント情報紙を作成し、県、市施設、旅館、ホテル、道の駅、サービスエリア、スーパー、コンビニ他に送付・掲示した。 ○テレビ・新聞等を通じて、アフリカゾウの仔である媛と砥愛の成長、ホッキョクグマのピースの様子、動物の搬入や繁殖した仔の成長情報など、県民にタイムリーな情報を提供した。また、ニュース報道だけでなく、動物に関するTV番組などへも積極的に協力した。 ○タマンサファリ・インドネシアから来園したジェニファーの一般公開前には、HPにて「ジェニファー便り」を公開し、随時ジェニファーの様子を伝えた。 ○令和7年度より、Instagramプロジェクトチームを立ち上げ、動物たちの魅力をさらにPRし、フォロワー数は、令和8年3月末時点で22,399人となっている。		各種SNS・TV番組・新聞などを通して定期的な情報発信を行うことで、県外に対しても広く情報提供を行えている。 特に、SNSプロジェクトチームを新たに立ち上げ、展示動物の愛らしい様子など、情報の積極的な発信によりフォロワー数の大幅な増加に繋がったことは高く評価できる。	評 価
			S

【評価基準】

- S・・・仕様書等で示した基準以上の顕著な成果が挙げられており、指定管理者制度導入の効果が特に認められるもの
A・・・仕様書等で示した基準以上の成果が挙げられており、指定管理者制度導入の効果が認められるもの
B・・・仕様書等で示した基準と同程度の成果が挙げられているもの
C・・・仕様書等で示した基準をおおむね満たしているが、一部工夫や改善を期待するもの



(5) 指定管理者制度の導入による効果と課題の検証

県施設所管課の総括	
愛媛県動物園協会においては、動物の飼育をはじめ適切な施設維持管理業務を実施しており、さらに自主事業として工夫を凝らした利用促進イベントの開催や、積極的な広報活動を展開し、入園者数の確保に努めている点は評価できる。 一方で令和7年度は、天候不良などの影響から、昨年度と比較して入園者数は減少している。 今後とも、県施設所管課と緊密に連携しながら、集客力の高いソフト事業の実施や、とべもり+（プラス）エリアとしての認知度向上による周遊促進に努めるなど、目標である年間入園者数50万人を達成することを期待したい。	